

開催日時：令和1年7月25日（木）14時～15時

開催場所：介護老人保健施設ステップハウス宝塚 会議室

出席者(敬称略)：(宝塚市医師会) (民生児童委員副会長) (宝塚市介護保険課)
(地域包括支援センター) (事業所3名)

欠席者(敬称略)：(自治会長) (家族)

議題内容

1、事業内容の説明(管理者より1月以降の事業内容の説明)

看取り、独居等の幅広い利用がある。

(事例検討：介3。パーキンソンのような症状(筋拘縮、排便困難等)

動いていた時→朝8時頃、夕方の訪問で対応。

5-6月より本人からの電話が増える。つながっているかが理解できずによく切る。不安の訴えや次いつくるかの確認が主。床に座り込み尿失禁が増える。元々夜間頻尿であったがPトイレに行けずに座り込んでしまう。ここで、夜間訪問の検討をするが時間帯に悩む。

何時に定期訪問を組みますか？

(包括)尿量を計測した上で時間帯を考える

1時～3時に電話対応も増え、ベッドの上にいるときは次の訪問時間を伝え、床にいるときは随時訪問対応していた。

夜1時に訪問し、排泄することで床への座り込みがなくなるが、この1つ1つアセスメントする間にも本人の状態の変化が大きく、スタッフ間の周知・情報共有も難しく感じた事例。

看取りも3名いる中で、1名は若い方。利用1週間程度で脳梗塞、入院し入院先でご逝去され終了。この方はオートロック付きマンションに居住で、家族不在時の入室方法が困難であった。今も悩まされる要因の1つ。

他2名はもともと法人内ヘルパーの利用者だった。一人は脊椎に腫瘍があり、高齢のため手術不適応。下肢筋力が入りにくくなり24hサービスを利用。5月にご逝去された。褥瘡を形成し治癒には至らなかったが、そこの痛みはどう関わっていくかを検討し最後1週間ではセデーションを行ったり、寒い時期だったが散歩をしたりと本人のしたいことに沿って対応できた。

2、事業報告

・平均18.5名の月の利用者。男性：女性=1：2。介護度平均3.3。訪問回数915回平均の看護師は40回平均。利用者は独居が圧倒的に多い。一体型をとっていることもあり、一体型利用者も多い。新規は月1件程度受けているが終了も月1件程度あり大幅な増減はない。看護を医療保険での利用は褥瘡による処置での対応が多い。地区では3-4地区が多くいる。現在宝塚は2事業所だが、社協、中山ちどりが公募で決まっている。

(介護保険課)社協は11/1～中山ちどりは9/1～を予定している。4事業所になり1つの事

業所で抱えていたことを4つでシェアしていきたいと考えている。

広報等はどう周知していけばわからないことも多く市との協力が必要。また、ケアの内容についても4つの事業所が同じように提供できるように意見交換も必要。

収支については赤字。今年度は人件費の見直し黒字。今月は23名利用となり転倒が多く朝に定期訪問と随時訪問だったが状態に応じて訪問回数を増やした。

新規相談を受けている中で、単位数の部分やケア内容で他の代替のサービス導入や、カンファレンス時に他のサービスになりつながらないこともある。東京の家族からの直接の問い合わせもあり資料送付もある。

3、自己評価の報告

I-(2)-3 定期巡回の研修が少なく年に1回。ケースに沿った対応を伝えながらオペレーターの技術力をサポートしている。権利擁護の研修では入院されたときの対応やお金の部分についての研修を受けることができた。

I-(2)-5 合同カンファでは利用者に起こり得る今後や看護師とヘルパーの思いなどの共有ができ、同じように理解してケアにつなぐことの重要性を学んだ。

I-(3)-7 事務時間に関わる物であり、IT化に向けて独自の帳票だけではなく、入力 of 簡素化を実施。定期巡回に特化したソフトも検討中。

I-(3)-8 訪問すればするほどみえてくるが、その場にはいないスタッフに周知が出来なかったり、状態の変化が大きいことで評価日に評価しづらかったりしている。ソフトなどを活用していく。

II-1-(2)-15 更新は3か月ごとに見直しをしているが新規の人の交付が遅れて入所になったりすることがある。24hサービスだけではなく他の事業でも起こり得ること。

II-1-(3)-17 法人内ヘルパーと訪問看護からの移行が多かったこともあり、担当者間での話し合いができた。昼休みにしか時間がとれず食事をしながらの話し合いもあり休憩時間がとれているかが曖昧。パソコン内をメインにしてその時その時の状態に合わせて相談していく。

II-3-(1)-28 なかなかできなかったが、6-7月に前回までの分がアップできた。引き続き早くできるようにしていく。

4、外部評価

(包括) プランの遅れについて、プランがないと動けない。初回のプランをおおまかに作ってタイムリーに出すことで情報共有が早くなる。

(管理者) 概要はケアマネに聞き、それにのっとり対応はできていてプランはできている。計画書などの家族や本人にサインをもらうことが遅れる。簡素化でその場で追記などができればいいが制度上どうか。

(介護保険課) 制度的にこの場ではわからないので答えられない。

(計画作成責任者) 利用者の状態変化が大きく、更新する際にはまた状況が大きく変わり追い付かないこともある。

(包括) 広報について、ケアマネばかりではなく病院や地域医療連携室に周知してもらうよう連携してみるのはいかがでしょうか。

(管理者) カンファに出たが結局つながらないこともあったので必要性は感じている。検討していく。

(包括) 情報共有の難しさよくわかる。些細な情報を発信して知るだけでも大きく変わってくる。

(管理者) それぞれのスキルも高く、思いもある。その一言を発信するかしないかで大きくかわってくる。忙しそうにみせているかも等反省点もあり言いやすい環境づくりをしていきたい。

(包括) 一人でのアセスメントに不安がある時は他の人にみてもらうことで、負担も軽く楽になることがあった。声をかけて2人でいくことも増えている。

(民生委員) 人と人の関りのため相性もあるので、複数だとこの人には話しやすいとかもある。営業も同じですね。

(管理者) 公社としても広げていきたい事業である。先ほどでた地域医療連携室にも働きかけてやっていきたい。

次回開催予定日

令和2年 1月 23日(木) 14時～15時半